# フレームリレー/ATM 間のサービス インターワ ーキング(FRF.8 - 変換モード)

```
内容
```

<u>概要</u> <u>前提条件</u> <u>要件</u> 使用するコンポーネント 表記法 設定 ネットワーク図 設定 確認 ルータ 1 ATM スイッチ トラブルシュート 関連情報

# <u>概要</u>

Frame Relay (FR; フレームリレー) / ATM 間のサービス のインターワーキング機能を使用する と、FR エンド ユーザと ATM エンド ユーザ間で通信が可能です。この方式は、<u>Frame Relay</u> <u>Forum(FRF.8)実装協定に基づいています。この協定では、2つの端末の間にソフトウェアの</u> <u>FRF.8で指定された仕様を実行するルータが存在する場合、FR端末がATM端末と通信できます。</u>

この文書では、LightStream 1010 で FRF.8(変換モード)を使用した、フレームリレー / ATM 間 のサービス インターワーキングの設定例を説明します。この設定は、Catalyst 8510 MSR または 8540 MSR でも動作します。

# <u>前提条件</u>

#### <u>要件</u>

このドキュメントに特有の要件はありません。

### <u>使用するコンポーネント</u>

このドキュメントの情報は、Cisco IOS<sup>®</sup>リリース12.0(3c)W5(9)に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このド キュメントで使用するすべてのデバイスは、初期(デフォルト)設定の状態から起動しています 。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的 な影響について確実に理解しておく必要があります。

#### <u>表記法</u>

ドキュメントの表記法の詳細は、「<u>シスコ テクニカル ティップスの表記法</u>」を参照してください 。

# <u>設定</u>

このセクションでは、このドキュメントで説明する機能を設定するために必要な情報を提供して います。

注:この文書で使用されているコマンドの詳細を調べるには、「Command Lookup ツール」を使 用してください(登録ユーザのみ)。

### <u>ネットワーク図</u>

このドキュメントでは、次のネットワーク セットアップを使用します。



この設定例のルータ 1 で使用する FR トラフィック シェーピング パラメータは、次のようになります。

- Committed Information Rate (CIR; 設定情報レート) = 64 kbps
- Committed burst ( Bc ) = 8000
- Excess burst ( Be ) = 8000

**注:フレームリレ**ートラフィックシェーピング接続のトラブルシューティング方法の詳細につい ては、『フレームリレートラフィックシェーピングに関する<u>showコマンド』を参照してください</u> 。

#### <u>設定</u>

このドキュメントでは、次の構成を使用します。

- •<u>ルータ1</u>
- ATM スイッチ
- ルータ 2

**注:これらの設**定には、フレームリレーとATM間のサービスインターワーキングのみに関連する 情報が含まれています。

ルータ 1



ルータ2のトラフィックシェーピングパラメータは、ATMスイッチのフレームリレー接続トラフィックテーブルから取得できます(セクションを参照)。

# <u>確認</u>

ここでは、設定が正しく機能していることを確認するために使用する情報を示します。

一部の show コマンドはアウトプット インタープリタ ツールによってサポートされています(登録ユーザ専用)。このツールを使用することによって、show コマンド出力の分析結果を表示できます。

show frame-relay lmi

- show frame-relay map
- show frame-relay pvc
- show atm vc interface atm 0/0/0
- show frame-relay connection-traffic-table-row
- show atm connection-traffic-table

• show frame-relay interface resource serial 4/0/0:30 all-information

次に示す出力は、ネットワーク図に示されているデバイスに上記のコマンドを入力した<u>結果です</u> 。この出力結果は、ネットワークが正常に稼動していることを示しています。

### <u>ルータ 1</u>

**注:Ciscoルータをサードパーティの接続に接続する場合**は、Internet Engineering Task Force(IETF)Local Management Interface(LMI)を使用することをお勧めします。 LMI は Cisco で 、フレーム リレーは、スイッチからクロッキングを受信しているため、DTE になります。

Router1# show frame-relay lmi

```
LMI Statistics for interface Serial5/0:30 (Frame Relay DTE) LMI TYPE = CISCO

Invalid Unnumbered info 0
Invalid Prot Disc 0

Invalid dummy Call Ref 0
Invalid Msg Type 0

Invalid Status Message 0
Invalid Lock Shift 0

Invalid Information ID 0
Invalid Report IE Len 0

Invalid Report Request 0
Invalid Keep IE Len 0

Num Status Eng. Sent 1222
Num Status msgs Rcvd 1222

Num Update Status Rcvd 0
Num Status Timeouts 2
```

dlci が up で、対応する IP アドレスにマップされていることを確認するには、 show frame-relay map コマンドを使用します。

#### Router1# show frame-relay map

Serial5/0:30 (up): ip 12.12.12.1 dlci 123(0x7B,0x1CB0), static, broadcast, IETF, status defined, active

フレームリレーpvcのステータスを確認するには、<u>show frame-relay pvcコマンドを使用</u>します。 下記の出力で、ステータスがアクティブであることが確認できます。

#### Router1# show frame-relay pvc

PVC Statistics for interface Serial5/0:30 (Frame Relay DTE)

	Active	Inactive	Deleted	Static	
Local	1	0	0	0	
Switched	0	0	0	0	
Unused	0	0	0	0	
DLCI = 123,	DLCI USAGE =	= LOCAL, PVC ;	STATUS = ACTIV	<b>E</b> , INTERFACE = Seria	al5/0:30
input pkts	5 786	output pk	ts 549	in bytes 742312	
out bytes	684503	dropped pl	kts 6	in FECN pkts 0	
in BECN pkts 0		out FECN j	okts 0	out BECN pkts 0	
in DE pkts 0		out DE pk	ts O		
out bcast pkts 1 out bcast bytes 608					
pvc create time 03:25:16, last time pvc status changed 03:09:30					

### <u>ATM スイッチ</u>

#### 注:ATM-PX/Y/Zという用語は、疑似インターフェイスを指します。

#### ATMswitch# show atm vc interface atm 0/0/0

ATM0/0/0	0	123	PVC	ATM-P4/0/0	30	155		UP
ATM0/0/0	0	102	PVC	ATM0/1/0	0	102		UP
ATM0/0/0	0	101	PVC	ATM0/1/0	0	101		UP
ATM0/0/0	0	16	PVC	ATM2/0/0	0	35	ILMI	UP
ATM0/0/0	0	5	PVC	ATM2/0/0	0	43	QSAAL	UP
Interface	VPI	VCI	Туре	X-Interface	X-VPI	X-VCI	Encap	Status

#### スイッチのフレームリレーからATMへの接続を表示するには、次に示すように<u>show frame-relay</u> <u>connection-traffic-table-rowコマンドを使用</u>します。

ATMswitch#show frame-relay connection-traffic-table-rowRowcirbcbepirfr-atm Service-categoryATM Row10064000327683276864000vbr-nrt1001236400080008000128000vbr-nrt123

#### ATMswitch# show atm connection-traffic-table

Row	Service-category	pcr	scr/mcr	mbs	cdvt	
1	ubr	7113539	none		none	
2	cbr	424			none	
3	vbr-rt	424	424	50	none	
4	vbr-nrt	424	424	50	none	
5	abr	424	0		none	
6	ubr	424	none		none	
10	cbr	50000			none	
11	cbr	1000			none	
12	cbr	11700			none	
100	vbr-nrt	81	81-0	50	none	
123	vbr-nrt	163	81-0	49	<b>none</b> < (*) 2147483645* ubr	: 0
none no	ne 2147483646* ubr	1 none none	e 2147483647* u	ıbr 7113539	none none	

(\*)frame-relay connection-traffic-table-row を作成する場合は、ATM テーブル行インデックスを 関連付けます。ATM テーブル行インデックスでは、バージョン 2.0 の Broadband Inter-Carrier Interface(B-ICI)仕様を使用して、ATM トラフィック シェーピング パラメータが自動的に計算 されます(公式を参照)。

ATMswitch# show frame-relay interface resource serial 4/0/0:30 all-information Encapsulation: FRAME-RELAY Resource Management configuration: Input queues (PAM to switch fabric): Discard threshold: 87% vbr-nrt, 87% abr, 87% ubr Marking threshold: 75% vbr-nrt, 75% abr, 75% ubr Output queues (PAM to line): Discard threshold: 87% vbr-nrt, 87% abr, 87% ubr Marking threshold: 75% vbr-nrt, 75% abr, 75% ubr Overflow servicing for VBR: enabled Available bit rates (in bps): 1920000 vbr-nrt RX, 1920000 vbr-nrt TX 1920000 abr RX, 1920000 abr TX 1920000 ubr RX, 1920000 ubr TX Overbooking: disabled Resource Management state: Allocated bit rates (in bps):

64000	vbr-nrt	RX, 64000	vbr-nrt TX
0 abr	RX,	0 abr TX	
0 ubr	RX,	0 ubr TX	
Actual a	llocated	bit rates	(in bps):
64000	vbr-nrt	RX, 64000	vbr-nrt TX
0 abr	RX,	0 abr TX	
0 ubr	RX,	0 ubr TX	

# <u>トラブルシュート</u>

現在、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

# <u>関連情報</u>

- ・ATMからフレームリレーへのインターワーキングテクノロジーのサポート
- ・<u>ATM テクノロジーに関するサポート</u>